

セアカゴケグモの毒性試験結果について

平成19年5月31日(木)

代表 連絡 先	環境衛生課 生活衛生グループ 担当 宗・倉持・上澤 代表電話 06-6941-0351 内線 2582 直通電話 06-6944-6708 メールアドレス kankyoeisei- g04@sbox.pref.osaka.lg.jp
---------------	---

セアカゴケグモの毒性試験を実施しましたので、結果をお知らせします。

1 目的

- (1) 10年前に実施した毒性試験結果との比較
- (2) 幼齢マウス、若年マウス、老齢マウスに対する毒性の比較（ヒトの幼児、成人、高齢者に対する毒性の推定）
- (3) 再度クモに咬まれた場合のハチ毒等に見られるアナフィラキシー症状等についての検討

2 試験期間

平成18年6月から平成19年3月

3 試験実施機関

大阪府立公衆衛生研究所

4 試験方法

- (1) 夏期に捕獲した成熟クモから毒腺を摘出し、リン酸緩衝液により毒腺液を作成
- (2) それぞれのマウスにクモ0.33匹、0.25匹、0.125匹、0.1匹分の毒腺液を腹腔内投与
- (3) 死亡マウス数及び生存マウスの体重減少率を算出
- (4) 生存マウスへ毒腺液を再投与し、死亡マウス数及び生存マウスの体重減少率を算出

5 試験結果等

- (1) 若年マウスの半数致死量値（LD50値）は0.88mg/kgで10年前捕獲されたクモとの毒性に大きな変化は無かった。
- (2) 一度咬まれた場合、健康な成人では生命に関わることはないと推測されるが、幼児や高齢者では健康な成人と比較して重症となる可能性があることも示唆された。（これまでの咬まれた事例では、重症例はありません。）
- (3) 二度目に咬まれた場合、一部に懸念されていたようなアナフィラキシー症状等のアレルギー反応は見られなかった。

6 今後の対応

健康被害防止の観点から、昨年度より実施している、学校等の施設管理者による駆除の現地啓発事業を継続するとともに、対象を一般の住宅にまで拡大し、適切な駆除推進を図るとともに、幼児、高齢者を含めた啓発活動の充実に努めます。

※アナフィラキシーショックとは

アレルギー反応のひとつで、二回目の抗原接種（ハチ等に二度目に刺される事も含む）時に血圧低下、呼吸困難等の全身性の激しい症状を生ずること。